

すすすく健康会議だより

平成23年7月19日

青森市立荻町小学校 保健室

すすすく健康会議

「ごみのないきれいな地域にしよう」

第二回参観日の7月8日(金)6校時、本校体育館に全校児童が集まって、すすすく健康会議が開催されました。

この会議は毎年、子どもの健康安全や生活環境に関することをとりあげ、学校や家庭・地域の方々が情報交換しながらいっしょに考えていく場です。

今回は、去る6月8日に実施した地域クリーン作戦で拾ったごみのことについて取り上げました。たくさんの保護者の方にも参加していただきました。



会議の運営は保健委員・放送委員

会議の準備は、児童会の各委員会で分担して進め、当日の会議の運営は次のメンバーが務めました。

- 書記 6年 ■■舞弥さん 5年 ■■葵朱さん
- マイク 6年 ■■諒亮さん 6年 ■■浩輔さん
- 放送機器 6年 ■■優衣さん
- 司会 6年 ■■大さん 5年 ■■佳乃さん



企画委員による問題提起



6月8日のクリーン作戦で拾ったごみは、企画委員と保健委員で仕分け作業をした後、各学年でごみの調査活動をしました。



タバコのすいがら	1845こ
タバコの箱	27こ
お菓子の袋・たべがら	308こ
紙くず	143こ
ペットボトル	10こ
その他の燃えるごみ	688こ
われたガラス	589こ
鉄くず・くぎ	437こ
あき缶	86こ
かさ	3こ
その他の燃えないごみ	147こ

私たちがみんなで拾ったごみは、最初にごみではありませんでした。誰かが捨てる前は、人間の役に立っていたものです。今日は、二つの課題について考えてみましょう。

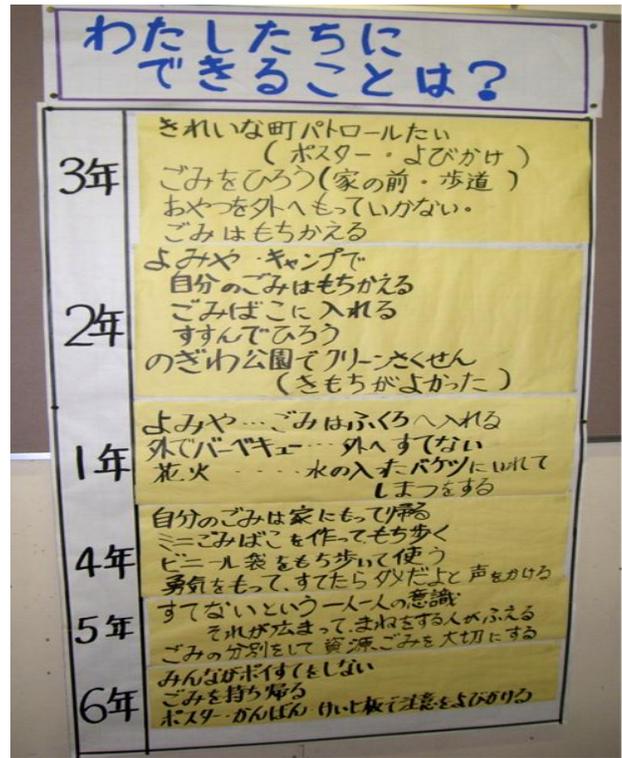
いったい誰がどんなふうにごみ捨てたのだろう

タバコすいがら	大人	何も考えないでポイ捨て
	大人	また後足ふんでそのまま
	大人	車の灰皿がいっぱい溢す
はこ	大人	道路ですてそのまま道にすて
お菓子のふくろ	子ども	ポイ捨て
たべがら	高校生まで	砂場で遊びごみにしてそのまま
	子ども	外で食べてめんどうくさくそのまま
紙くず		
ペットボトル	いろいろな人	ごみばこがなくすて
その他の燃えるごみ	大人	めんどうくさくすて
われたガラス		
鉄くず		
あき缶	大人	自販機のものんだ後、横においていく
かさ	大人	コンビニで新しいのを買って、こわれたかさは店近くですて
その他の燃えないごみ		

各学年で話し合った内容を、代表の人たちが発表してくれました。

発表した人

- 1年 ■■李和さん
- 2年 ■■みおさん ■■芙実和さん
- 3年 ■■功二さん ■■ 遥さん
- 4年 ■■彩音さん ■■静琉さん ■■■凜乃さん
■■裕大さん
- 5年 ■■孝行さん ■■悠貴さん ■■隆則さん
- 6年 ■■諒亮さん



意見・感想発表

地域をずっときれいにしていくために

私たちにできることは何だろう



6年 ■■滉大さん
ごみはビニール袋などに入れて、それをリュックに入れるようにすると、捨てられるごみは少なくなると思いました。

4年 ■■裕芽さん
学年代表の人たちの話を聞いていたら、少しずつでもできることがたくさんあると思いました。私も注意して生活したいです。



5年 ■■正泰さん
4年生の発表を聞いていたら、自分にもできそうなことがありました。ビニール袋やミニごみ箱を持って歩いたり、ごみを拾ったりすることです。やってみようと思いました。

発表した人

- 1年 ■■伎良さん ■■三大さん
- 2年 ■■朱来さん ■■諒大さん
- 3年 ■■駿亘さん ■■諒人さん ■■滯さん
■■奈央さん
- 4年 ■■響さん ■■桐子さん ■■生利さん
- 5年 ■■正泰さん ■■万理夫さん
- 6年 ■■匠さん





高杉さん

町の中には、あまりごみ箱がないのだなということに気がつきました。そのために、ついつい道路に捨ててしまう人がいるのかもしれない。みんなの発表の中にもあった、ごみを捨てるための袋を持ち歩くのはいい考えだと思いました。



山田町会長さん

6月のクリーン作戦の日は、私も皆と一緒に参加しました。ごみを拾っただけで終わらずに、その後に分類して勉強したことに感心しました。このことが大人にとっても子どもにとっても、地域をきれいにしていく運動に役立ってほしいなと思っています。



渡辺町会長さん

6月の地域クリーン作戦の日は、私は皆と一緒に栄町方面へ行きました。暑い日だったので、皆汗を流しながら拾っていましたが、誰一人不満そうな顔をせず、一生懸命に活動していました。今日は拾ったごみをグラフにしていたのですが、これを見ると一人の人間が、大体50こくらい拾ったこととなります。とてもがんばったんですね。

私は、浦町中学校の生徒さんとも一緒にごみ拾いをしたことがあります。中学生もみんな一生懸命拾っていました。その中に、こんな生徒さんがいました。海の方にはたくさんごみが落ちてることがいつも気になっていて、自分はそこのごみ拾いをよくしている。この生徒さんは大きくなってきくと、ふる里の自然を守るために続けていってくれるのではないかなと思いました。

今日の皆さんの活動はいいことだと感心し、とてもうれしい気持ちになりました。

校長先生のお話



今日の会議の運営をしてくれた保健委員会や放送委員会のみなさん、そしてまた、問題について発表してくれた企画委員会のみなさん、たいへんご苦労様でした。各学年でもよく話し合いしてまとめてくれました。

みなさんに聞いてみたいと思います。

「今まで、ごみを捨てたことがある人は、手をあげてください。」
(誰もちゅうちよすることなく、正直に挙手してくれました。)



今日の発表を聞くと、ごみは捨ててはいけないということは、みんな知っているんですよ。あたり前のことなのです。でも、あたり前のことに気づいていない人がたくさんいるのです。まず、自分が捨てないようにすることが大切です。それを是非、自分から進んでやってください。

いつまでも地域がきれいなままでいるように、今日勉強したことが役に立ってほしいと思います。

この地域をずっときれいにするために

私たち一人一人ができること

子どもたちからは、誰にでもできそうな、素朴で身近な対策がたくさん出されました。校長先生が言うように、**まず自分が捨てないことをこれから本気で実行していきましょう。これは大人も子どもも関係なく心がけたいものです。**

5年生・6年生の高学年からは『捨てないという一人一人の意識』『分別をして資源ごみを大切にすること』ということがあげられました。また、『捨てる人はいつも捨てていて、拾う人はいつも拾っている』だから『みんながポイ捨てをしない』ということもあげられました。

6月のクリーン作戦で拾ったごみで一番多かったのが『タバコの吸殻 1845こ』です。子どもたちは、まるで宝物でも見つけたかのように、吸殻をせっせと拾っていました。大人たちが身勝手にポイ捨てしたごみを、子どもが拾ってきれいにしたのです。悲しいことに、その翌日にはさっそく新しい吸殻が道路に落ちていました。健全な子どもたちに育てる立場であるはずの、**大人のモラルが問われている**ような気がしてなりません。私たち大人も、子どものよいお手本になれるように心して生活していきたいものです。